

# 平成29年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見直し（平成29年8月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	平年並か少ない

○9月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	8月の発生量 (現況)	9月の 増減傾向	増減傾向の根拠
カンショ	① ナカジロシタバ	並	→	幼虫数の例年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	② イモキバガ	並	↗	被害葉率の例年の発生推移から、8月より発生量が増加すると考えられる。
	③ ハスモンヨトウ	(発生なし)判定不可		データの蓄積不足のため、判定保留。
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	→	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	やや少	→	トラップ誘殺虫数の例年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	→	発病果率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	② 黒点病	並	→	発病果率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	③ そうか病	やや多	→	発病果率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	④ アブラムシ類	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↘	寄生葉率の平年の発生推移から、8月より発生量は減少すると考えられる。
	⑥ ハダニ類	やや多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、8月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	↗	発病果率の平年の発生推移から、8月より発生量が増加すると考えられる。
	② 黒点病	(発生なし)並	→	発病果率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	③ そうか病	並	→	発病果率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	④ アブラムシ類	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ミカンハモグリガ	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	⑥ ハダニ類	並	↘	寄生葉率の平年の発生推移から、8月より発生量は減少すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	やや多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	寄生葉率の平年の発生推移、新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	やや多	↗	雌成虫数の平年の発生推移、新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より発生量は増加すると考えられる。

○9月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	8月の発生量 (現況)	9月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ヘチマ	① うどんこ病	判定不可		データ蓄積不足のため、判定保留。
	② ベと病	(発生なし)並	→	発病葉率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ヒメクロウリハムシ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハモグリバエ類	(発生なし)やや少	↘	発生葉率の平年の発生推移から、8月より被害が減少すると考えられる。
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)やや少	↗	発病葉率の平年の発生推移から、8月より被害が増えると考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)やや少	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、8月より発生量が増加すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫	判定不可		データ蓄積不足のため、判定保留。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※判定不可は、過去3年分のデータがないため、比較判定できない。

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

# 平成29年度 宮古群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見直し（平成29年8月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	平年並か少ない

○9月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	8月の発生量 (現況)	9月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① バッタ類	判定不可	→	多発地域について、発生推移から8月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	多	↘	トラップ誘殺数の平年の発生推移から、8月より発生量は減少すると考えられる。
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↘	トラップ誘殺数の平年の発生推移から、8月より発生量が減少すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	トラップの平年の発生推移、新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	(発生なし)並	↗	平年値の発生推移、新葉発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	→	雌成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の高温傾向から、8月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※判定不可は、過去3年分のデータがないため、比較判定できない。

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

# 平成29年度 八重山群島 病害虫発生予報 第6号(9月予報)

○向こう1か月の天候の見直し（平成29年8月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	平年並か少ない

○9月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	8月の発生量 (現況)	9月の 増減傾向	増減傾向の根拠
水稲	① スクミリングガイ	やや少	→	貝数の平年の発生推移から、8月の同程度の発生量と考えられる。
さとうきび	① バッタ類	判定不可		データの蓄積不足ため、判定保留。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	→	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	→	芯枯莖率の平年の発生推移および切開調査の結果から、8月と同程度の発生量と考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	判定不可	→	新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、発生が継続すると考えられる。
	③ ナカジロフサヤガ	判定不可	→	新梢発生時期であること、今後1ヶ月の高温傾向から、発生が継続すると考えられる。
	④ ハダニ類	やや少	→	雌成虫数の平年の発生推移からは減少傾向だが、今後1ヶ月の高温傾向から、8月と同程度の発生量と考えられる。
オクラ	① うどんこ病	並	→	発病葉率の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	多	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の高温傾向から、8月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	やや多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、同程度の発生が継続すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫	(発生なし)並	↘	幼虫数の平年の発生推移から、8月より減少すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※判定不可は、過去3年分のデータがないため、比較判定できない。

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。